

喝破だより

四恩の里

喝破五訓

- 一、よろこんで与える人間となろう
- 一、いのちを大切に作る人間となろう
- 一、心静かに考える人間となろう
- 一、使命に生きる人間となろう
- 一、規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

発行 公益財団法人 喝破道場 社会福祉法人 四恩の里 宗教法人 報四恩精舎 発行者 野田 大燈
 住所 〒761-8004 高松市中山町1501番地9 TEL 087-882-4022 FAX 087-881-5906 一部500円
 E-mail kappa@kappa.or.jp URL https://www.kappa.or.jp 郵便振替口座 徳島 01630-6-9731

巻頭言

地産地消

― サヌカイトと言う石 ―



― 世界発サヌカイト陶琴432Hz ―

での火山噴火で流れ出した溶岩の一種がサヌカイトなのです。

この地で農業を営む者には、この硬度七の鋭い破片の石は手や指先を傷つける悪魔のような存在でした。

ただ、石辺を叩くと妙音を発することから仏教楽器として昔から使用されてはいましたが、五十六年前の東京オリンピックの開会式で世界に向けてサヌカイトの演奏がなされた事から打楽器としてのデビューがあつたと聞いています。

喝破道場での楽器としての取り組みは、四国八十八カ所徒歩巡拝中だったAさんが道場に留まり出家修行中にサヌカイトを粉末にして粘土に混ぜ込んで陶器を焼き上げたことに始まります。

Aさんは大学院生の頃に鉱石の分析をしていた経験から「サヌカイトを微粉末にして粘土に混ぜ合わせて焼き上げると特有の色合いを持った陶器が出来るのでは」と試行錯誤の末に焼き上がった容器を、何気なく叩くと「カーン」と言うサヌカイトの音を発した事に始まります。

その後は抹茶碗や風鈴などを作務の合間に作っていました。地元の小学生在「ふるさと学習」で道場を訪れたので、サヌカイトの歴史等を説明し、粘土にサヌカイトを混ぜた抹茶碗を叩いてみせました。すると一人の男児が「そしたら和

尚さん、これで楽器ができるね」と言いました。

私には思いも付かない発言に戸惑いすら覚えました。

後日、先生が子供たちの作文を届けてくださり、その中の一文に「和尚さんが私達の為に楽器を作ってくると約束してくれました。楽しみです」とありました。

約束をした覚えは全くないのですが、何時までも頭に残って消えないのです。

これを機会に失敗を重ねた末に木琴を真似た打楽器が完成しました。その第一号は地元の小学校に寄贈しました。

現在は癒しの音と言われています。四百三十二本の世界に唯一の「サヌカイト陶琴」が完成し、三才からピアノを習い音大を卒てからマリンバ奏者として東京で演奏活動をしていたMikiさんとの出会いから演奏をお任せする事となりました。

Mikiさんには国内は勿論として世界各国での演奏を期待しています。

今は旅立った遍路のAさんはお大師様の化身だったのでしようか。

コロナ禍で世界が混沌としていますが、打楽器演奏することでサヌカイトが放出するマイナスイオンが聴衆の身心を癒してくれるでしょう。

― 大燈記 ―

自立塾 (一七〇)

— うららかな秋の日に —

野菜の成長

自立塾では、ハーブ以外に唐辛子や大根、キャベツ、白菜などを育てています。十一月は二十度を越す夏日もあり、例年より暖かい日が多くありました。野菜達の成長が良く、一気に大きくなりました。大根は、収穫できる大きさに育ち、煮物や和え物、味噌汁の具などに使っています。みずみずしくとても美味しい大根が収穫できました。



立派な大根に育ちました

種まきの時から一緒に育てている塾生にとっては、収穫の感動や大根の美味しさもひとしおでしょう。ビニールハウスの空いたスペースで育てている白菜やキャベツも徐々に巻き始めました。今まで路地で育

てたキャベツは冬に収穫できたことはほとんど無く、九月に育て始めてキャベツが年を越した六月に収穫できていました。今年は温暖な秋とハウスでの栽培により成長が早く、十二月中旬頃に収穫できると思います。



成長する白菜

日に日に大きくなる野菜を見るとワクワクします。

喝破道場で研修

十一日に福岡県のフリースクールメンバーが喝破道場に日帰り研修に来ました。メンバーは中学生と高校生の十名で、坐禅と写経、お遍路体験、農作業の研修を行いました。フリースクールでは瞑想の時間を毎週取っているようですが、本格的な坐禅は初めての経験で、戸惑いながらも四十五分間しっかり座れていました。写経も初めての者が大半でし

たが丁寧に般若心経を写すことが出来ました。



熱心に写経する

皆が写した写経は、四国遍路八二番札所根香寺まで遍路道を歩き納経所に納経し、お参りをしてきました。プチ遍路体験ができるのは喝破道場ならではです。その後、ハーブ農園でミント畑の除草作業を行いました。何故ハーブを育てているのか？、何故喝破道場という名前なのか？等さまざまな質問を受け、皆の熱心さが伝わりました。引率のスタッフさんから、フリースクールは十八歳までを対象にしていますが、三十代四十代と年齢の高い方の問い合わせも多いので、喝破道場を紹介しても良いですか？と質問もあり、是非ともお願いしますと答えました。喝破道場の良さを理解してくださり、横の繋がりが出来たことが何よりの収穫となりました。

頑張れ!! 『自立塾』 私達も応援しています。

ぜいへん 蛻変の経営

大坂塾



<http://www.osaka-juku.com/>

本社オフィス
東京都江東区有明1-4-11-3217
TEL/050-5505-1006

香川オフィス
香川県高松市番町4-2-19
TEL/087-863-6888

『喝破道場』 私達も応援しています!



株式会社ギフトグッズ

香川県高松市六条町1205-1

Gift Goods

TEL 087-814-4990

株式会社ギフトグッズ

FAX 087-814-4991

新しい世界を楽しもう

ハーブ園便り

ハーブ園では十月からローズマリーの出荷が始まりました。毎週火曜金曜日に4kgを出荷しています。



ハーブ園の斜面にはローズマリーを千株以上育てていますが、定植して八年目の古株になっており、枯れてしまった株や変色して病気な株が沢山あり、元気な新葉を探して収穫するのは容易ではありません。来年の三月までに元気がない株を抜いて新しい苗を植え代える予定です。

ローズマリーは地中海沿岸原産で、世界中で栽培されています。家庭菜園でも育てやすいハーブです。おうちで育てている人もいるかもしれません。香りの強いローズマリーは、肉や魚などの料理のくさみ消しやアクセントとして欠かせない

ハーブのひとつです。特に鶏肉と合わせたレシピが人気です。「ローズ」という名前が入っているもの、香りはすっきりとしたハーブらしいもの。花のような甘さはありません。その強い香りを活かした簡単な料理を三つご紹介いたします。

【チキンのローズマリーソテー】



鶏肉にローズマリーの葉をまぶしつけたあとに、にんにくと一緒にフライパンで焼きます。ポイントは、鶏肉の皮がパリパリになるように、しっかりと焼き目をつけることです。ローズマリーの香りとジューシーな鶏肉がくせになる味です。

【イワシのローズマリー風味】

イワシにドライのローズマリーと塩こしょうで下味をつけて、フライパンで焼くだけの簡単レシピ。ポイントは下味をつけたイワシに、オリーブ油

をなじませてから焼くことです。



【ローズマリー風味のガレット】

千切りにしたじゃがいもと粉チーズ、ローズマリー、塩こしょうをよく混ぜたあと、フライパンに薄く広げて焼いて作るガレット。じゃがいものでんぷんが、のりの役目になるので、じゃがいもを千切りした後は水洗いせず、そのまま使うのがポイントです。



是非、ローズマリーを使った料理を試してみてくださいね。

私達も応援しています。『自立塾』

人と企業を結んで32年!

フリーペーパー **タイムス** Human Network

2,500余ヶ所にて無料配布

株式会社 求人タイムス社

本社 / 観音寺市本大町1541-3
TEL (0875) 25-0404

高松営業所 / 高松市林町230-6 極東ビル1F
TEL (087) 864-6373

<http://www.kyujin-times.net>

『自立塾』私達も応援しております。

キッチン・バス・トイレ・増改築・ボイラー工事
四国ガスショップ・四国電力認定店
高松市上下水道工事指定工事店

廣瀬 住宅総合サービス

(本社) 高松市末広町6番地9
☎822-5478代 ☎0120-512677

(離島店) ☎861-3167

基調講演

大燈和尚が、東京農業大学世田谷キャンパスにて、「人間・植物関係学会、日本園芸療法学会合同国際シンポジウム二〇一九年度大会」の開催に際して行った基調講演の内容を掲載させていただきます。

花無心(六)

― 連綿の生命に目覚めるとき ―

野田 大燈 (曹洞宗僧侶)

公益財団法人喝破道場理事長

これはハーブ園でして、この辺り一帯はローズマリーが5、000㎡植わっています。私もこんなに植えるつもりはなかったのですが、親しくさせて頂いていました今は亡き早稲田大学で心理学を教えておられた春木豊名誉教授が「和尚、私が顧問をしているハーブ研究所の所長にハーブ園の話をするに興味を持って伺いたい、と言っているのでお連れするから」とのことです、お越し下さいました。

無口な方でしたが、ハーブ園を隈なく廻られて「和尚さんは本当にやる気があるの?」と問われるのです。「勿論ありますよ。この一角には約100種類のハーブが植わっています」。先生は、「じゃあ、申し上げます



― 五色台ハーブ園 ―

がこの程度のハーブ園は全国に腐るほどあります。和尚が本当にやりたいのなら突出しなければならぬ」「突出とはどういうことですか」、「和尚さん、北海道の富良野と言ったら何を思いますか」、「富良野は有名ですね。ラベンダーですね」、「そうでしょう。皆さんはラベンダーと耳にしたら富良野を思い浮かべるのです。これです。和尚さんが本当にハーブ園をやるうと思うなら、それくらいやらないと駄目ですよ」、私は目が点になりました。

私も富良野にハーブ栽培の見学に行きましたがご存知のように規模が違います。広大な北海道だからこそだと思いますが人を魅入らすスケールを持っています。先生は山林の部分を指さして「この一角を伐採してローズマリーを植えなさい」、すごいことを言いますね。その山林部分

の面積は約5、000㎡です。「えっ、ローズマリーですか。どうしてですか?」、「私の見た限りではこの土質は酸性土壌で地形も地中海に似ています。植えるならローズマリー以外は適さないでしょう」。後で聞いたらローズマリーは肥沃な土地は駄目で、痩せ地が良いですね。「剥ぎなさい」と言われて私は馬鹿正直なところがありますので「はい、分かりました」、と言う事で、言われた通りに5、000㎡の山林全部の伐採開発を業者に委託して着手したのです。

私の弟子が「和尚、どうするのでですか。こんな大工事をして:」、ここにローズマリーを植える」、「ローズマリーは既に植わっているじゃないですか」、「それはそうだが、東京の先生がここに全部ローズマリーを植えると言われたから植える」、「植えてどうするのですか」、「どうするかこうするかは聞いていないから分からない」、とは言いながらも私の頭の中にはおぼろげながらも成長したローズマリー畑で多くのボランティアの人たちが嬉々として作業している姿が見えていました。

あきれ返っている弟子たちを尻目に伐採工事は完了しました。「和尚さん、どうぞ気が済むまでおやりください。我々は手が回らないのでお手伝いは出来ません」そのような反対の中で、学園の子ども達や知人の

手助けでローズマリーを植えました。5、000㎡です。私も皆が言うようにこれを植えてどうなるのかな、と思いました。いい加減な和尚ですね。

植えてしばらくしたら、たまたま訪ねて来られた方が、「和尚さん、これはローズマリーじゃないですか」、「よくご存じですね。そうですよ」、「ローズマリーをこんなに植えてどうするのですか」、「どうするって、ある方が植えると言われたから植えただけで私にも判らないのです」、「えっ、植えろと言われたから植えたのですか?」、わかりました。ローズマリーの精油を採ろうとしているのですね」、「精油って何ですか?」全然知識がないのです。「蒸留すれば化粧水になるでしょう」。その方はあきれ帰ってしまいました。

化粧水になる、と言う事を聞いて私はインターネットで調べてみました。確かに蒸留すればローズマリーの化粧水が取れるようです。

しかし5、000㎡ものローズマリーはそのうちに放置しておいても徐々に成長して行くのです。でも不思議と内心は落ち着いていて楽観的なのです。ローズマリーウオーターも作りました。そしてその効果に驚きもしましたが収益には繋がりませんでした。

(つづく)

へネコおことわり

安部麗子

牛のデボラ・カウ夫人は、家の前の小さな庭を、花で一杯にしています。

その庭を見下ろすウッドデッキには、緑色のペンキを塗った、ベンチとテーブルが置かれていて、いろんな動物達が集まって、お茶をします。

ところが、このウッドデッキにも、最近鉢植えが少しずつ進出してきて、お客さん達は、踏み付けないように苦労しています。

もうこれ以上鉢植えは増やせませんので、弱ったり、ヒヨロヒヨロのびてしまった株は、庭のどこかに下ろすか、泣く泣く捨てるかなければなりません。

残った土は、青いビニールシートに掛けて、根っこの切れ端やゴロ土を選り分けて、お日さまに消毒してもらいます。

雨が降りそうになったら急いで取り込み、少しでも照つたら拡げます。

こうしてすっかり乾いて清潔になった土を、またプランターに入れて、新しい花を育てます。

長い雨が終わって、ようやく秋らしいお天気になりました。

デボラ夫人は、まだ底に水の残っている鉢植えをいくつも選びだします。

ビニールシートの上に土ごとあけて、まだ元気そうな株と、死んでしまった株を選り分けます。

雨上がりで湿っていて、ゴロ土を選り分けるのは難しいので、一緒くたに木戸の外に運び出し、シートの上に拡げます。良く乾くように、なるべく薄く拡げておきます。

シャム猫のミドリ又さんは、ベージュの素敵なコートと、黒いブーツと手袋が自慢です。

一日に十回以上も鏡を覗き、糸屑もホコリもついていないように、ペロペロ舐めてお手入れしていますので、いつもピカピカです。

話し方だって、田舎の動物達のようにバフバフ鼻を鳴らしたり、グワツグワツとか、ブヒブヒとか、品のない声を出したりしないで、ミーミーとか、ウフン、アハンなどと、鼻声で話します。

時にはスラリと伸びた手足をしどけなく投げ出して、日光浴をしていたりします。

そんな時は、まるでハリウッドの女優さんのようです。

オスの動物達は勿論、メスの動物達も、なんて上品で素敵なのでしょう、うっとりするのはです。

そんなミドリ又さんが、長いキセルを片手に、シヤナリシヤナリとお散歩しておりますと、カウ夫人の家の前に、シートに拡げた素敵な土に出会いました。

ネコという生き物は、サラサラした土には目がありません。もう、触ってみたくてたまらなくなります。

そして、穴を掘らずにはいられません。

その穴の中にウンチをして、そのウンチの上に土をかける時、「生きていて良かった！」と、しみじみ幸せを噛みしめるのです。

上品なミドリ又さんは、辺りに誰もいないのを確かめると、その通りの事をしていったのです。

これを見つけたカウ夫人は、どこかの野良猫の仕業にちがいないと思い、園芸センターで「ネコおことわり」という、ツブツブの薬を買ってきます。

ネコのいやがるツンと来を匂いがします。このツブツブをシートの端に撒いておいたのですが、翌朝行ってみると、土はやっぱりかきよせられて、小さな山になっています。

夫人は、今度は杭を立てて、「ネコのみなさんへ。ここをほじくらないでください」と書いた看板を打ち付けます。

ミドリ又さんは、昨日のようにキセル

を持って、しゃなりしゃなりとやってきましたが、これを読んで深く反省します。

おかげでカウ夫人は、ゆっくり時間をかけて、いい土を作る事が出来るようになりました。杭は、今後のために残しておきます。

暫くすると、この杭の周りに、犬がたくさん集まるようになります。

カウ夫人の耳に、こんな会話が聞こえてきます。

「やあ、おたくでしたか。匂いはかねがね嗅がせていただいていたよ」

「はじめまして。」

想像していた通りのお方ですな。

今後ともよろしく」

犬の社交場になっていたのですね。

カウ夫人は「イヌおことわり」の薬を買ってきたでしょうか。

いいえ、看板を外しただけです。

なんたって、犬は防犯の役にたちますもの。

了



ひみずの滝 (七)

田中徹矢

父に空手を教えてもらって、十年が経とうとしている。途中、離れることもあったが、今は毎日のように稽古をしている。これほど鍛錬していても、瞬介には思うところがあつた。

自分の空手には何か足りない。常にそう感じる。技が身につけていない、とも言えいいのか。一応、それらしくできているように見える。しかし自分の中では、体の動きがスムーズに連動していないと思うことがほとんどだ。

ごくごく稀だが、理想と思うかたちで技が決まることがある。体の動きすべてが一方方向に繋がりが、それらを収束するかたちで技が決まる。その瞬間は頭の中で、ぱしんと音がした。おそらくは本当に音が鳴るわけではなく、感覚的なものだ。そして直後には軽い衝撃が体を貫く。そのとき、完璧に技が決まるとはこういうことかと感動に震えた。

この感覚を日々追い求めていた。しかし、それができるのはせいぜい一年に一、二回。それができた直後、どのような体の使い方をしたのか反芻してみるのだが、さっぱり思い出せない。むしろ無心であつたからこそできた気もする。

「坊、暑いのに精が出るな」
背後から声がかかった。あわてて振

り向くと山伏姿の男がそこにいる。大柄な体を白い装束に包み、人懐っこい笑みを浮かべていた。春先に見かけた修験者だ。前回と違い、音も気配もなく現れた。以前は無愛想にも感じられたが、よく見れば豪放で愛嬌のある顔をしている。

「えっ、あつ、あの、こんにちは。春にもお会いしましたよね」
「やはり覚えていたか。坊はいつもここで、ひとりで空手を？」

「えっ、ええ。そうです。いや、あの、お坊さんに坊って呼ばれるの、何か違和感あるんですけど」
その答えに山伏は笑った。

「面白いことを言うな。だが、わたしは厳密に言うとお坊さんではない。ただ山から山へ修行して歩いているだけだ。それじゃあ、君の名前は何という？」
「六車瞬介っていいいます。瞬間の瞬に、介護の介で、瞬介です」
「瞬介か。わしは愚覚という。愚かさを覚ると書く」

「愚覚さん、ですか」
変わった名だ。お坊さんにしろ、修行僧にしろ、もつと立派で仰々しい名前をつけるのではないか。

「歳はいくつだ？」
「十四です。来月、十五歳になりま

す。中学三年です」
「そうか。まだ若いのに大したものだ」
「え？ えっと、何がですか？」
「瞬介、君の空手だ」
「えっ、そうなんですか。愚覚さん、そんなこと分かるんですか？」

「ああ、分かるとも。君の空手は非常によく練り込まれている。おそらく幼いころから地味な鍛錬を続けているのだろう。技のすべてが動きにムチミをもなっている」

ムチミとは琉球空手の言葉で、漢字で書けば鞭身となる。文字通り腕や足を鞭のようにしならせて使うことをいう。威力が増すだけでなく、スムーズに技を出し入れすることができ。一朝一夕でできるものではなく、型などの基本稽古を気の遠くなるほど反復して、ようやく身につくものだ。瞬介は愚覚がムチミを知っていることに驚いた。

「すごくくわしいですね。空手やってたんですか？」
「まあ、ね。若いころは空手だけでなく武道全般、いろいろやった」
愚覚は少し遠い目をする。こうして改めて見てみるとかなり若い印象だ。もともとの顔だちが端正で、実際には実年齢より若く見られることが多いだろう。やはり父が生きているとして、同じくらいの歳に思えた。

「今はずっと山で修行ですか？」
「ああ、石鎚山を中心に四国修験の行場を渡り歩いている。香川では、ここ五色台だけでなく、金刀比羅宮の象頭山(ぞずさん)や八栗寺の五剣山も踏破しているよ。いや、わしのこととはどうでもよい。それより、君はいつもひとりで稽古しているのか？」

「はい」
「なぜひとりで？」
「ひとりで練習するのが好きなんです」

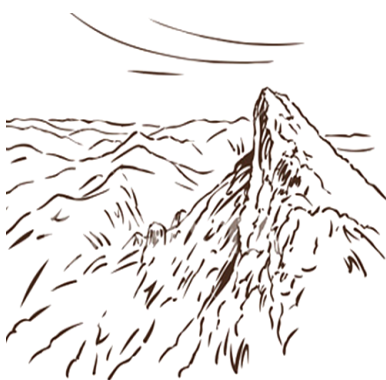
「山の中ですか？」
「それは、趙州和尚がこの場所を教えにくれたからです。この滝は僕のお気に入り場所です。誰も来ないから。いえ、愚覚さん以外は、ですね」
愚覚はまた笑った。堂々とした体躯に山伏姿。いかつく見えるが、笑顔や言葉に屈託がない。吸い込まれるように話をしてしまうのはそのためだ。

「そうか。君もこの場所が好きなのだな。わしもそうだ」
愚覚は自分を指さした。

「そうなんですか」
「ああ、ここ五色台はいにしえよりの行場だ。かの弘法大師もこの地で修行をしたという、由緒ある場所なんだ。わしはこの地には、人間の精神になんらか作用する磁場があるのではないかと考えている。サヌカイトという鉱石が埋もれていることも無関係ではないと思う。きつと君も影響を受けているはずだ」

「へえ、そういうものですか」
瞬介は感嘆の声をあげる。

(つづく)



戴き物一覧

10月21日～11月20日

- 一 じやが芋、かぼちゃ
- 一 北海道中川郡 井村 和義様
- 一 かぼちゃ
- 一 北海道名寄市 渋谷ひとみ様
- 一 りんご
- 一 山形県天童市 (有)キンダイコミュニケーション様
- 一 DVD 横井 昭 様
- 一 東京都新宿区 横井 昭 様
- 一 みかん 平沢よし子様
- 一 長野県飯田市 アイゼン はま街道店様
- 一 お菓子 匿名 様
- 一 香川県高松市
- 一 讃岐うどん 匿名 様
- 一 香川県観音寺市

ご寄付

10月21日～11月20日

- 北海道札幌市 近 郷史 様
 - 東京都新宿区 横井 昭 様
 - 千葉県稲毛区 南部 公成 様
 - 長野県上田市 大草佐記子様
 - 香川県丸亀市 大久保歯科医院様
 - 香川県観音寺市 匿名 様
 - 愛媛県伊予市 高橋登良雄様
- 令和2年度(11月20日現在)
ご寄附総額は、
百二十四万七千四百三十四円です。

皆様方の温かいご支援に、
心より感謝申し上げます。

自立塾のご案内

『自立塾』は、自立に向けて不安を抱えた方や、何らかの理由や原因により生きる目的や体力・気力に自信をなくした方の社会復帰支援・自立支援塾です。

禅の修行生活を取り入れ、合宿形式による自給自足の集団生活により、各人それぞれが生きる自信と意欲を取り戻すために日々取り組んでいます。

- ・期間：三ヶ月コース・六ヶ月コース
- ※ご要望により長期滞在可能です
- ・入塾受付：随時



大阪市 山口 近香

「喝破道場」ご支援のお願い

平素より公益財団法人喝破道場の活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

「禅」を心の拠り所としての活動を展開し、更なる社会貢献を図って参ります。どうぞ本誌のご購読とご寄付によるご支援を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄附に対しましては、公益財団法人の活動として租税特別措置法施行令第二十六条の二十八の二第一号に規定する要件を満たしております。「税額控除に係る証明書」が発行されますので、節税としてもご活用下さい。

- 購読料 年間五、〇〇〇円
- ご寄付 一口五、〇〇〇円
- (一口以上、何口でも結構です)

郵便振替口座 01630・6・9731

公益財団法人 喝破道場

賛助広告掲載ご協力をお願い

平素は『自立塾』の活動にご高配を賜り御礼申し上げます。
昭和49年に興されたカツパ禅道場。開山の精神は、自立塾に受け継がれています。揺るぎない思いを胸に今後も活動してまいります。一層のご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ページの下端一枠
(ヨコ8cm×タテ6cmほど)
年間12回 60,000円
受付 087・882・4022

十一月の日鑑

11 8 薬師講
イオン幸せの黄色いレシートキヤ
ンペーン参加 於 高松イオン
山王小祭

高松市委託就労準備支援事業
(毎週月・木曜日)
善通寺市委託就労体験的ボランティア
事業(毎週火・金曜日)

十二月の予定

11 8 薬師講
イオン幸せの黄色いレシートキヤ
ンペーン参加 於 高松イオン
山王小祭
19 15 第三回 餅つき大会

高松市委託就労準備支援事業
(毎週月・木曜日)

大燈和尚十一月の日鑑

3 若竹学園生の踊りの発表会と
お茶会 於 随流荘
3 圓通寺「定例坐禅会」
6 3 香川大学心理学関係者来山
喫茶「ゼルコバ」
7 8 東京の太田さんグルー
P 来山
9 故板橋禅師猊下お逮夜
於 大本山總持寺
10 故板橋禅師猊下本葬儀茶毘式
於 大本山總持寺
11 香川県PHP友の会グリーン活動
於 五色台遍路小屋周辺
サヌカイ陶琴演奏会
於 76番札所「金蔵寺」
演奏者 M i K i



18 曹洞宗新潟宗務所主催
講演会に出向

24 圓通寺「定例坐禅会」
26 社会福祉法人「四恩の里」施設
管理者会議 於 若竹学園
27 若竹学園生徒参禅会
於 喝破道場坐禅堂

大燈和尚十二月の予定

1 圓通寺「定例坐禅会」
15 圓通寺「定例坐禅会」
17 社会福祉法人「四恩の里」本部・
若竹学園に県の監査
31 大晦日 越年坐禅会(自覚の集い)
11時40分〜元旦0時15分まで坐禅堂
元旦 了つて元朝祈禱 於 本堂

編集後記

十一月に入り国内感染者最多を何
度も更新し、新型コロナウイルスの
第三波と言われるほど猛威をふるい
感染が拡大しています。皆様どうぞ
感染対策をしっかりと行い、ご自愛
くださいませ。

喝破道場では十二月十九日に恒例
の『餅つき大会』を開催いたします
が、コロナの感染状況や国の方針等
を踏まえて、餅つき大会参加者の公
募は控えさせていただきます。喝破
道場の塾生やスタッフだけで執り行
わせていただきます。ご理解くださ
いませ。

喝破道場の活動は、喝破便りやH
P、フェイスブックやインスタグラ
ム等のSNSで情報配信しておりま
すが、コロナ禍にあつては活動報告
などの情報発信が皆様と喝破道場が
今後も繋がるもつとも有効な手段で
す。HPやSNSはサボりがちな
かなか更新できておりませんので、今
後は定期に情報発信をしていきます。

また、塾生たちと心をこめて栽培し
加工した「禅ハーブ」商品は販売サイ
ト『zenherb.net』で購入できます
が、まだネット販売されていない商品
も多数ありますので、ネット販売にも
力を入れたいと思います。禅ハーブ商
品も是非ご購入くださいませ。

—— 大然後記 ——

児童施設で働いてみませんか



職 種：管理者候補 医師(精神科医)
心理 保育士 児童指導員 事務員
勤務先：四恩の里 本部
児童心理治療施設 若竹学園
児童養護施設 亀山学園
自立援助ホーム なごみハウス圓



連絡先：香川県高松市中山町1501-192
社会福祉法人四恩の里 本部 ☎087-816-1380
メールアドレス: 4on@4on.or.jp ホームページ: http://4on.or.jp